学習院大学新聞

発行所
学習院大学新聞社
〒171-8588東京都豊島区
目白1丁目5番1号
電話 03（3986）0221内線2607
http://www-cc.gakushuin.ac.jp/~press/
press@gakushuin.ac.jp
発行・編集人　下里豪平
年間500円

学生食堂　改装される

大学生のニーズに応え　メニュー一新

9月21日、本学学生食堂がリニューアルオープンした。この施設は近年学生対象のアンケートにて、食事内容や価格について苦言を呈されることが多かった。夏季休業期間を利用し改装工事が行われ、再スタートを切ることとなる。


カフェテリア杜に新しく設置されたサラダバー

改装後に運営を行う業者は、ファミリーレストラン経営、社員・学生食堂の委託業務に実績がある（株）セブン&アイ・フードシステムズとなった。同社は、学習院女子大学・学習院高等科の食堂改装工事も手がけており、後者は既に好評を博している。

学生食堂の名称は変更されず、カフェテリア杜はそのまま使用されていく。内装は大幅に改装され、本学の豊かな森をイメージした、緑を基調とする温かみのあるデザインとなった。食器類も全て一新し、より清潔感あふれるものが使われる。このように、視覚的に強く訴えかけることで、学生が過ごしやすい空間づくりを狙っているという。更に、昼時に混雑しがちだったレジの配置も改善され、効率の良い営業を目指していく。

メニューも、大学生のニーズに応じたリーズナブルかつ美味しいものへと変わる。新しい試みとして、サラダバーも導入された。具体的な価格は以下の通り。

・ランチプレート	400円
・丼物	380円〜
・アラカルト	150円〜
・カレーライス	370円
・オムライス	400円
・パスタ	350円〜
・小鉢、スープ	50〜100円
・サラダバー	200円
・ラーメン	320円
・焼きたてパン	100〜150円
・各種弁当	380円〜

その他にも多彩なメニューが用意されており、テイクアウト用のお弁当まで幅広く揃えていく。

2階さくらラウンジには喫茶コーナーが設けられた。各種ドリンクメニュー、グラム単位の惣菜計り売り「楽市」、20種類にも及ぶパンの販売が行われている。時間帯によっては、アルコール類も購入できる。また、ケーキ類やデザートなども扱っていく予定だ。パーティメニューも提案されており、学内での懇親会、新年会、忘年会なども、一週間前まで予算に応じて承っている。

なお、コンビニエンスストアは、長年親しまれてきたローソンから、同系列会社のセブンーイレブンに入れ替わった。将来的には同系列ということを活かし、学生食堂とも共通で使用できるプリペイド式カードなどの導入といった構想もなされている。

喫煙マナー改善

分煙徹底キャンペーン

9月21日より、本学において「学内完全分煙徹底キャンペーン」が行われた。以前から構内における喫煙マナーは問題視されており、学内での分煙化が推進されてきた。しかし、歩きタバコや吸殻の投げ捨てなどが後を絶たないことから、学生にタバコに対する意識を改めて明示させる必要があったようだ。

学生部が行った「学生生活アンケート」では、タバコのマナーに対する批判的な意見が目立った。また、2001年に国の政策として「健康増進法」が施行され、受動喫煙防止について、施設管理者の責務が定められている。これらの理由を鑑み実施が決定した。

このキャンペーンにおいて、大学は具体的なルールを定めている。教室棟内の全面禁煙、そして、大学内での喫煙は屋外の11箇所の喫煙ゾーンで行うこと。さらに、歩きタバコや、吸殻のポイ捨て禁止などである。主な喫煙所については以下の通り。

- ・黎明会館と富士見会館の間
- ・富士見会館前
- ・北1号館掲示場前
- ・大学図書館前
- ・ピラミッド校舎前
- ・南2号館前
- ・百周年記念館前など。

（詳しくは左記の図参照）

現在、灰皿の設置されている場所以外でもタバコを吸う人の姿は多く見受けられる。今回のキャンペーンは、このような事態を改善させるための良い機会となるだろう。学生部は、徹底した分煙に対する自覚と協力を呼びかけている。

過去最多来場

オープンキャンパス

8月4日、23日に本学にてオープンキャンパスが開かれた。今年の来場者数（付き添いの父兄など除く）は計7973人にのぼり、過去最高を記録した。内訳としては、第1回目の開催では4804人、第2回目のオープンキャンパスは、3169人だった。昨年に比べ、約1700人以上を上回る受験生たちが訪れ、好評を博していたようだ。

そのような盛況の要因の一つは、他大学のオープンキャンパスとの違いにある。本学では、全学部全学科において学科説明会と、模擬講義が実施されるのだ。これにより、各学部・学科それぞれの教育内容や特徴について、来場者は自らの肌で感じることができた。こうした大学側の対応により、受験生たちが大学や学科選びをする際、柔軟に対応できるよう貢献している。

また、本年度から新たに開始されたオープンキャンパスプログラムとして、学長および教務部長による「開会式」が挙げられる。そこでは、本学の核となる人々により直接その教育理念の説明が行われた。この試みは、大学の長所を表明する場として今回、大変重要視されている。そのほか、教職員と学生たちによる個別面談やキャンパスツアー、大手予備校の講師による本学の一般入試問題対策講座など、受験生のための様々なコーナーが設けられていた。

なお、次回は10月27日に開催される。当日来場した受験生には全員、一般入試要項（願書）が無料で配布されるとのことだ。

定員増える

哲・心理学科

平成20年4月より、文学部哲学科及び文学部心理学科の定員を増員することが発表された。それぞれの定員は、哲学科が87名から95名に、心理学科は75名から90名となる。増員人数としては少ないが、比率でみると、哲学科で約10%、心理学科で約20%の増加だ。その結果、文学部全体の定員も1学年につき、602名から625名となる。

増員決定となった理由は以下の通りだ。哲学科では、ここ数年入学者が定員を上回る結果となっている。さらに、大学院人文科学研究科の哲学専攻から美術史学専攻が独立。それに伴い、今後の受験者増加が見込まれるからである。一方、心理学科では現在、人文学科研究科に臨床心理学専攻の設置を構想している。それによって教員を増員し、今まで網羅されていなかった研究もできるようになり、その分野への志望者が現れるためだ。

少人数教育が大きな特徴の一つである本学。その中での両学科の拡充は、受験者に強い印象を与えたようだ。実際、入学の門戸の拡大に繋がることから、受験生から入試相談会やオープンキャンパスなどで多くの質問を受けている。

近年、学部や大学院で様々な改革が行われている。これにより、今年度は大学全体としての志願者の減少に歯止めをかけた。来年度の定員増加で、志願者が増えることが予想される。

素朴な疑問

黎明って　ナンダ!?

多くの団体が部室をかまえる黎明会館。その「レイメイ」という名前だが、なんだか神秘的な響きである。この神々しい名前の由来は、一体どこからきているのだろう。

手始めに、世に存在するたいていの語句の解説がされている、素晴らしき広辞苑をひいてみた。「黎明」…夜明け、明け方。建てられた当時は、輝くような白さだったであろう黎明会館には、ぴったりの名前な気がする。残念なことに、今は大分くすんでしまっているけれど。

そんな黎明会館は、今でこそ雨風しのげる立派な部室棟であるが、一昔前まではプレハブ造りで超ボロボロ。その怪しげな様相から「もぐら屋敷」や「でこぼこ長屋」なんて呼ばれていたそうだ。あまりにオンボロだったため、今から約30年前に改築。そして棟名は公募により「黎明会館」に決定したのだ。

実は、黎明は明け方の他にも比喩的に、新しい時代の始まりという意味もある。もしかしたら、棟改築と共に心機一転、各部が輝く新時代を築いてゆくためにつけられた名前なのかもしれない。個人的には「でこぼこ長屋」も、どこか情緒があってよかったと思う。

（光）

明窓浄机

有名なことわざに「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」というものがある。

何事にも消極的な私は、積極性という観点からこの言葉を考えてみた。すると、連想される出来事が次々と思い起こされた▼例えば、大学入学直後のオリエンテーションでのことである。まだ友達が少なかった私にとって、知り合いを増やす絶好のチャンスであった。だが、初対面の人と話すのが苦手な私は、結局誰にも話しかけることができなかった▼また逆に、勇気を出して行動してみた結果、後悔したことは一度も無かったように思われる。どの部活に入部しようか迷っていたとき、興味を持っていた大学新聞社のドアを叩いた。このことは現在、生活の中心となっている。今振り返ってみると、重要な決断であったと言えるだろう▼他にも多くの出来事からこのことわざの教訓を、私は身をもって経験してきた。しかし、未だこれらの体験を活かしているとはいえない。積極的な行動をして成功したにもかかわらず、相変わらず消極的な姿勢をとってしまうのだ。そうした中で、先日二十歳の誕生日を迎えた。これを良い区切りとして、今までの自分と決別したい。そのためには、困難な状況に陥ったときにはこの言葉を思い出し、後悔の無いよう積極的な行動を心がけたい。

（志）

学習院

研究最前線

学問研究の「いま」

「新たな日本的経営を求めて」

経済学部経済学科　宮川　努教授

今回は経済学科の宮川努教授に、企業のビジネス戦略と投資行動についてお話を伺いました。先生はマクロ経済学・国際マクロ経済学を主な研究テーマとされています。

（取材・構成　伊藤桃子）

◇　◇　◇

研究テーマとの出会い

先生は、以前勤めていた銀行で有形資産投資中心の研究調査業務に携わっていた。そこで長年調査を進めるうちに、次第に無形資産投資の重要性について考え始めたという。

「日本の景気動向を見る上で、有形資産への設備投資について考えることは非常に大切です。ですが、それだけではどうも日本経済は活性化しないのではないかと疑問に思い、段々とそのことが自己の問題意識として定着していきました。企業や経済全体がどれだけ無形資産を蓄積しているか、研究する必要があると強く感じるきっかけとなりましたね」

無形資産重視の時代へ

かつて、日本のビジネススタイルこそが世界をリードしていると言われた時代があった。しかし、バブル崩壊で未曾有の大不況が訪れると、日本は既存のビジネススタイルの変革を迫られることになる。

無形資産投資の重要性

「90年代に起きた社会経済の大きな変動の一つに、IT革命があります。それは、単に技術革新が起こっただけではありません。世界中のどこからでもアクセスを可能としたことで、ビジネススタイルそのものを新たに創造していかなければならなくなったのです。その中でもアメリカは、90年代後半にかけて先進諸国には考えられないような成長率を見せました」

特許権やブランド価値、IT技術の革新に沿った高度な人材の育成による組織のフラット化。これらは無形資産に代表され、早くからこうしたものへの投資を重視したアメリカは、ソフトウェアの構築と共に企業そのものが進化を遂げることができた。しかし、日本ではもともと無形資産投資が有形資産投資に比べて少なすぎるため、両者のバランスが非常に悪い。先生は、今後の経済が安定するためにも双方のバランスを保つことが重要だと訴える。

「有形資産投資は増えれば増える程、その収益性が低下してしまいます。ですが、日本のメガバンクは非常に保守的で、融資の際は有形資産を担保として重視してしまう傾向にあります。要するに、企業価値のはっきりしている所にしか貸付を行わないのですよ。逆に、アメリカではベンチャービジネスへの出資が盛んで、無形的な技術を見込み将来的な企業価値を評価しようとする人々がたくさんいます。このような無形資産への蓄積に差が生じてしまうのは、日本の銀行の体制にも問題があると思いますね」

新しいビジネスモデルの模索

無形資産投資を軽視しがちな日本ではあるが、最近になり、一部の有力企業は海外に直接投資を行っている。会社のシステムそのものを現地に移植することで、工場や店舗を経営する企業もあるのだ。このように、日本の企業の中には、新たな経営方法を模索しているところもある。

「日本が昔から得意とする『ものづくり』の仕組みを活用して、収益を上げている企業がいくつかありますね。けれども、日本国内でものを製造し輸出するだけでは従来の有形資産を用いた経営に過ぎません。そうではなく、製品を作るプロセスや、会社の経営システムそのものに価値をつけ、海外に向けて売り出していく。それは、製造業の分野で、無形資産経営の強みを生かしていける可能性が十分にあることを示しているのです」

日本のブランドは、これからも世界に通用していくことができるだろう。だが、近年では安価な労働力と高度な技術力を兼ね揃えた中国などに、押されつつあるのも現状だ。グローバル化の波が押し寄せつつある中、日本経済は生き残りをかけた選択を迫られている。日本は、これからどのようにして無形資産を蓄積していけばよいのか。先生の飽くなき探求心は、日本経済の展望を形作っている。


日本経済を研究する先生の著書

PROFILE

宮川努（みやがわ・つとむ）

78年東京大学経済学部卒業後、日本開発銀行入行。99年より本学で教鞭を執る。06年に経済学博士号修得。著書に『日本経済の生産性革新』（日本経済新聞社）など。

情報特急便

学習院大学東洋文化研究所
設立五十五周年記念
東洋文化講座・シリーズ
「東アジア史の一断面
—歴史のなかに今を見る」

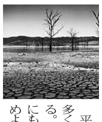
「朝鮮・台湾総督府官僚と制服
—支配者たちの〝身なり〟—」
講師：岡本真希子氏（早稲田大学東アジア法研究所客員講師）
日時：9月28日（金）18時〜
場所：西2号館503教室

「儒教のマルチン・ルター
—南海康有為と大同の夢—」
講師：高柳信夫氏（学習院大学外国語教育研究センター教授）
日時：10月12日（金）18時〜
場所：西2号館503教室

就職セミナー
第2回「企業から見た就職活動」
講師：（株）日本ユニシス・ラーニング　竹田裕彦氏
日時：10月2日（火）18時〜

第3回「効果的な自己PR・マナー・エチケット解説」
講師：（株）プライムタイム　坂本敦子氏
日時：10月12日（金）18時〜

第4回「就活の総まとめと心構え」
講師：（株）リクルートスタッフィング　淡野健氏
日時：10月18日（木）18時〜
場所：各回いずれも記念会館正堂



2　地球に迫る危機

平均気温の上昇により、多くの自然が破壊されている。美しい地球を守るためにも、温暖化への知識を深めよう。

紙面紹介

3　遊ぼう学ぼう！　水族館特集

4　健闘むなしく敗北　男子ラクロス部

下里 JAPAN

Go to 2008

今季初めて足を運んだ埼玉スタジアム。レッズサポーターである私にとって、ホームでの試合は絶対に負けられない。

結果は4−1と完勝。場内の雰囲気に、終始鳥肌が立ちっ放しであった。

（下）

聞こえますか 地球の悲鳴
～温暖化特集～

水と緑の惑星、地球が危機に瀕している。それは、私たちの生活が要因となって生じている、地球温暖化による影響が大きい。この窮地を脱するためには、どうすればよいのだろうか。そこで、本特集では温暖化の原因と現状を知るとともに、今私たちができることを考えていきたい。

気温上昇 日本への警告

現在、地球温暖化による水温の上昇によって、海洋様々な現象が、世界各国に始めているのである。そして、生物の繁殖や育ちにも、注目人の生活に迫ってきている。しかし、冬への学生は、具体的にどのような問題が起きているのかを知らないのが実状だろう。そこで、ここでは国内で見られる温暖化現象についてまとめてみる。

日本では最近、温暖化を原因とする異常気象が多く見られるようになった。特に台風や局地的豪雨などは、深刻な被害をもたらしている。他にも、猛暑日の増加や、暖かにとされる降雪量の減少など、身近なところに温暖化は現れている。

それでは、温暖化が引き起こす問題について詳しくみてみよう。第一に注目するのは、自然生態系への影響だ。自然界に起きている現象は、主に植物の開花時期の早期化、動植物の生育地の移動である。具体的な例としては、サクラの開花時期が早まっているこや、サルやイノシシの生息地が広がったことなど、が挙げられるだろう。それだけでなく、農林業への影響も忘れてはならない。気温が上昇すると、穀物の収穫量が低下し、倉庫不足を招く恐れがあるのだ。

なお、昆虫種の異常は、海の中でも確認されている。熱帯性プランクトンの増加、ウニ・カメノ類常発生で、サンゴやサバが激減したのである。

また、海洋生態系が見直され、減農・無農薬野菜など、安全性の高い食品が市場に普及するようになった。

だが、残念なことに、必ずしも学生の食への意識が高まっているとは言い難いなか、無理なダイエットや鼻炎薬、ファーストフードに頼りきった生活など、私たちは健康とは反した行動をとってしまうこと。「まだ若いから大丈夫」という言葉を耳にするが、これらが「過剰に恐れる」ことは決してなければならない。次世代を担っていくのは私たち若い世代である。その私たちが、食に関する危機感を持たず、このまま社会に出ることになれば、また同じ過ちを繰り返すに違いない。

食は生命を手段であるだけでなく、ひとつの文化であり、楽しみでもある。生活の一部である食の安全が脅かされる状況は、危惧しなければならない由々しき事態であろう。これから食のグローバル化がさらに進み、事態がますます悪化する可能性もある。この現状に歯止めをかけるには、個々が食の安全への意識を高める以外に道はないのかもしれない。

（経済学科２年　増井亮太）

連鎖する食品の安全問題

現在、食の安全に対する信頼が揺らいでいる。今年7月に世間を騒がせた、ダンボール入り肉まん事件が、まるでフィクションのような事件であるが、報道直後は多くの人が、この問題が現実に起きたものと信じに違いない。後に、騒動は虚偽報道であることが判明した、けれども、こういった不自然な事件が存在が信じられてしまうほどに、食に関する問題が次々と露見している。

中国産の食の安全問題については、以前から取り沙汰されてきた。今年に入ってからだけでも、アメリカで中国産のうなぎに基準値を上回る農薬が使用されていたりなど、例を挙げればきりがない。立て続けに事件が起きたため、日本をはじめ、世界各国で中国の商品に対する不信感が募り、今まで以上に強い非難の声があがるようになった。確かにこれらの問題は、生産者のモラルの低さや、政府の監視体制の甘さなどが大きな要因となっている。そのため、中国側が責任を求められるのは仕方がないことである。

しかし、事件を考察する際、中国の問題ばかりを追及するのでは足りない。他国の動向にも、騒動を引き起こす原因があったことを忘れてはならない。先進諸国の企業は、原材料や労働力の安さを追い求め、中国の市場へ続々と参入していった。そういった流れの中、農薬や抗菌剤などが中国に持ち込まれたのだという。利益を追求するあまり、安全を軽視した結果が、現在の危機的状況を生み出してしまったものと考えられる。

学生に求められる食への心がけ

食の安全への認識の甘さは、国内における企業の行動からも見受けられる。ミートホープの牛肉の偽装問題を皮切りに、消費者の信用を裏切るような事件が相次いでいるのだ。それらの事件を背景に、従来の効率性を重視した生産が見直され、減農・無農薬野菜など、安全性の高い食品が市場へ普及するようになった。

だが、残念なことに、必ずしも学生の食への意識が高まっているとは言い難いなか、無理なダイエットや鼻炎薬、ファーストフードに頼りきった生活など、私たちは健康とは反した行動をとってしまうこと。「まだ若いから大丈夫」という言葉を耳にするが、これらが「過剰に恐れる」ことは決してなければならない。次世代を担っていくのは私たち若い世代である。その私たちが、食に関する危機感を持たず、このまま社会に出ることになれば、また同じ過ちを繰り返すに違いない。

食は生命を手段であるだけでなく、ひとつの文化であり、楽しみでもある。生活の一部である食の安全が脅かされる状況は、危惧しなければならない由々しき事態であろう。これから食のグローバル化がさらに進み、事態がますます悪化する可能性もある。この現状に歯止めをかけるには、個々が食の安全への意識を高める以外に道はないのかもしれない。

（経済学科２年　増井亮太）

記者の眼

近年、深刻化が叫ばれ続けている地球温暖化。今も気温の上昇は世界各地で観測されており、私たちの生活に様々な影響を及ぼすことが懸念されている。

もちろん、今まで気温の上昇が起きなかったわけではない。過去一万年間で地球の気温は約4～7℃上がやすい温度に保っていたと言われている。だが、20世紀に問題視され、温暖化が進行し続けている温室効果ガスには、二酸化炭素・水蒸気・メタン・フロン・一酸化二窒素などがある。

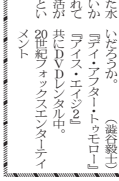
産業革命以降、工業や発電の発達によって大量の化石燃料が燃やされ、多くの二酸化炭素が排出されるようになった。こうして温室効果ガスの濃度が増加し、より多くの太陽エネルギーが地球に留まることで気温が上昇してしまうのだ。

温暖化原因は、地球の熱取支に深く関わっている。地球の大気は、太陽からのエネルギーを赤外線として反射する。このときに太陽エネルギーの一部を吸収し、地表面を生物が住みやすい温度に保っている。

以前は、人類が排出した二酸化炭素を植物や海洋が吸収し、それによって二酸化炭素濃度は安定を保っていた。しかし、その後二酸化炭素の排出量は増加し、一方で植物は森林伐採などによって減少の一途を辿った。このことが二酸化炭素濃度の上昇に拍車をかけてしまったのである。

温暖化の原因については話題になれており、温室効果ガスだけでなく、あらゆる環境問題が温暖化に結びつく。これらがいずれも人的な要因であることを忘れず、ここで温暖化についての知識を考えを深めていきたい。

映画に見る地球温暖化



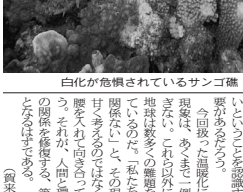
地球規模化は環境の激変をもたらすが、その変化は人間には壊しやすく様々な影響を与える。人類がどこまで滅亡の瀬戸際に追いやられるのかを、映画を紹介しよう。

まずは、SF映画の『デイ・アフター・トゥモロー』だ。この作品では、逆に温暖化の映画では温暖化によって引き起こされる大災害と、その中で人類がどう生き抜いていくかがテーマの『デイズ・エイジ2』だ。この作品では、逆に温暖化による氷河期の終わりが描かれている。舞台となるのは、大陸の中の地球は、温暖化の進行で極地の氷が溶け、暖流の温度が低下し、急激な寒冷化に見舞われる。こうして世界は新たな氷河期に突入、CGによる迫力満点の映像で見られる脅威の光景は、きっと人々を圧倒するだろう。

次に動物たちの反乱と愛情がテーマの『デイズ・エイジ2』だ。この作品では、逆に温暖化による氷河期の終わりが描かれている。舞台となるのは、大陸の中の地球は、温暖化の進行で極地の氷が溶け、地球が暖まったことにより水が溶け、せき止められた氷が大海水となって彼らに襲いかかる。それが、人間と環境とはいうものの、今までの生活が温暖化によって壊れていくという様子を描いている。

両作品で視点は異なるものの、温暖化が地球規模のマナーの認識を生み出すものであるのである。現象はもはや人類普通の課題であることは明白だ。無味乾燥な事実からではなく、映像から学び始めてみれば、よりたくさんの人々が関心を持つきっかけとなるだろう。

『デイ・アフター・トゥモロー』『デイズ・エイジ2』共にDVDレンタル中。20世紀フォックスエンターテイメント


白化が危惧されているサンゴ礁

前進する 世界の取り組み

温暖化を防ぐために、各国は様々な対策が講じられている。世界共通の対策危険性は、決して低くはないということを認識する必要があるだろう。

今回扱った温暖化による現象は、あくまで一例にすぎない。これら以外にも、温暖化による海面上昇による海水の腐食入れて向き合ってみよう。それが、人間と環境との関係を修復する、第一歩となるはずである。

（賀来潤恵）

温暖化を防ぐために、各国では様々な対策が講じられている。世界共通の対策危険性は、決して低くはないということを認識する必要があるだろう。

今回扱った温暖化による現象は、あくまで一例にすぎない。これら以外にも、温暖化による海面上昇による海水の腐食入れて向き合ってみよう。それが、人間と環境との関係を修復する、第一歩となるはずである。

（賀来潤恵）

京都議定書とは、温暖化の原因となる温室効果ガスの削減を、先進国に初めて義務づけたものである。この議定書では、08～12年の期間に90年比で日本6%、カナダ6%、ロシア0%削減を目標に定めている。しかし、残念ながら、アメリカ、中国など一部の国は参加できなかった。

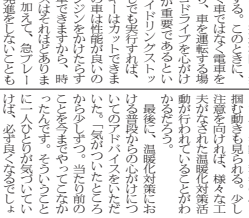
また、議論は削減目標だけでなく、費用がかかるため、目標達成が難しい国への削減方法の提示にまで及んだ。そこで、解決策の一つとして「京都メカニズム」が提案された。これは、共同実施、クリーン開発メカニズム、排出量取引の三つからなる制度を軸としている。

共同実施とは、先進国が共同で排出量削減の事業を行うことである。莫大な費用がかかる実現性の低い新エネルギー開発より、まずは着実に削減できる技術を先進国同士で共有しようという意図だ。そして、この事業による削減量は、実施国と技術・資金の投資国とで、分割できる。

クリーン開発メカニズムとは、先進国が途上国に技術や資金を提供し、温暖化防止に貢献することである。例えば、ロシアは経済不況による工場の封鎖などで、目標削減量を達成しやすい。そこで、さらに削減できれば、目標に達しない他国へ排出量取引とは、先進国間で排出量を売買することを示す。例えば、ロシアは経済不況で、現実的に決り方向に進んでいる。一方、各国の対応を見ると世界全体で話し合い、行うことで改善できる。これからの国際社会の動向に、期待したい。

（木村明子）

今日から始める 温暖化対策


エコライフへの道を語る井土さん

「私たち学生は、地球温暖化を防ぐために何ができるのだろうか。環境省に所属する国家地球環境事務所の環境対策課職員、井土大道さんに伺ってみた。「実家にお住まいの方も、冷暖房力を抑える方も、待機電力を抑えるなどの、ライフスタイルを変えることで、温暖化対策に参加できる。例えば、テレビは主電源を切る、パソコンを使っていてもしまってしまう。これだけでもたいぶ違うのです。」

さらに、「待機電力を抑える制度」というものもあります。これは、製品の割引を行い、買い替えを補助する企業もあるらしい。買い替え時にこれらの製品に切り替えるのも有効だろう。

また、私たち学生は通学や旅行などに交通機関を多く利用する。このときに、なるべく地球に優しい電車を用いたり、車を運転する場合もエコドライブを心がけることが重要であるという。「アイドリングストップを少しでも実行すれば、エネルギーはカットできます。今の車は性能が良いのでエンジンをかけたらすぐに発車できますから、時間のロスはそれほどありません。」加えて、急ブレーキや急発進をしないこともが、大切だ。

しかし、このような温暖化対策の方法を知ってほしいも、実行に移すことは難しい。この点については何が足りないのだろう。

「目標を決めると実行しやすいと思います。例えば1人1日1kg削減、というように。」

恐ろしい事態が、近い将来、現実のものになる可能性を自覚した。

地球の未来を変えるのは、私たちが生活を見直すだけでは、方法はない。今早だが、温暖化の防止を考える契機になれば幸いである。

（賀来潤恵）

夢模様 Vol.9

鈴木真里奈さん

経済学部経営学科2年

等身大の自分を見つめて

鈴木さんは、高校時代に短期留学した際に、日本が持つ文化の美しさを再認識した。同時に、国を上回る良くする方法を模索しそうだ。それがきっかけとなり、彼女は「映像や演劇で日本を変えたい」という夢を抱くようになったのである。彼女にとって、作者の想いを視覚的に伝える映像や演劇は、言語以上に雄弁な意志伝達の手段なのだ。

その夢を叶えるために、まずは人生経験を積む必要がある。そう考えた鈴木さんは、NPO団体主催する議員インターンシップに参加した。彼女はそこで、議員の実態を見たり、意見を交換したりなどの貴重な体験ができたという。そして、さらに見識を深めるべく、彼女は団体のスタッフになった。「それらの活動を通じ、社会のニーズを見極める力の重要性を痛感しました。」

また、多くの人々と交流する時間が持てたことも、彼女のかけがえのない財産になった。「チャンスを掴むには、様々な人と出会うことが肝要です。人生の可能性を試す機会が増やせたのである。鈴木さんの夢が実現するまでの道は、長く険しい。だからこそ、彼女は自分を甘やかさず、日々を過ごしていくことであろう。この彼女は、目の前の現実を見据え、これからも理想の社会の在り方を追求していく。

（取材・構成　賀来潤恵）

編集後記

今夏は猛暑日が続き、各メディアで温暖化現象が頻繁に取り上げられていた。基だが、温暖化の防止を考える契機になれば幸いである。

今回の特集を企画した。このまま温暖化が進め、地球環境が破壊されることになる。その際、人類の生活はどうなるのだろうか。自然が豊かな生活を享受してきた我々は、目の前の現実を直視し、慣れた日本人への警告は甚大だろう。現在、温暖化による水温の上昇によって、海洋様々な現象が、世界各国に始めているのである。そして、生物の繁殖や育ちにも、注目人の生活に迫ってきている。しかし、冬への学生は、具体的にどのような問題が起きているのかを知らないのが実状だろう。そこで、ここでは国内で見られる温暖化現象についてまとめてみる。

日本では最近、温暖化を原因とする異常気象が多く見られるようになった。特に台風や局地的豪雨などは、深刻な被害をもたらしている。他にも、猛暑日の増加や、暖かにとされる降雪量の減少など、身近なところに温暖化は現れている。

それでは、温暖化が引き起こす問題について詳しくみてみよう。第一に注目するのは、自然生態系への影響だ。自然界に起きている現象は、主に植物の開花時期の早期化、動植物の生育地の移動である。具体的な例としては、サクラの開花時期が早まっているこや、サルやイノシシの生息地が広がったことなど、が挙げられるだろう。それだけでなく、農林業への影響も忘れてはならない。気温が上昇すると、穀物の収穫量が低下し、倉庫不足を招く恐れがあるのだ。

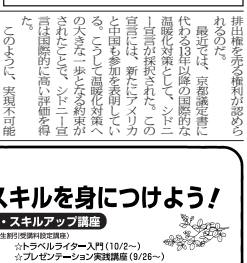
なお、昆虫種の異常は、海の中でも確認されている。熱帯性プランクトンの増加、ウニ・カメノ類常発生で、サンゴやサバが激減したのである。

また、海洋生態系が見直され、減農・無農薬野菜など、安全性の高い食品が市場へ普及するようになった。

だが、残念なことに、必ずしも学生の食への意識が高まっているとは言い難いなか、無理なダイエットや鼻炎薬、ファーストフードに頼りきった生活など、私たちは健康とは反した行動をとってしまうこと。「まだ若いから大丈夫」という言葉を耳にするが、これらが「過剰に恐れる」ことは決してなければならない。次世代を担っていくのは私たち若い世代である。その私たちが、食に関する危機感を持たず、このまま社会に出ることになれば、また同じ過ちを繰り返すに違いない。

食は生命を手段であるだけでなく、ひとつの文化であり、楽しみでもある。生活の一部である食の安全が脅かされる状況は、危惧しなければならない由々しき事態であろう。これから食のグローバル化がさらに進み、事態がますます悪化する可能性もある。この現状に歯止めをかけるには、個々が食の安全への意識を高める以外に道はないのかもしれない。

（経済学科２年　増井亮太）



企　画　賀来　潤恵
構　成　増井　亮太
レイアウト
取　材　木村　明子
澁谷　毅士
筒井久実子

御礼

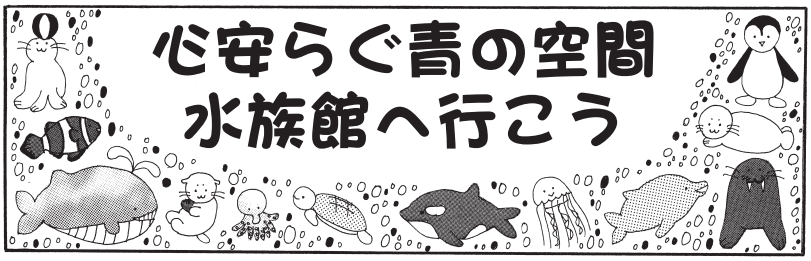
ご愛読ありがとうございました

第199号より9回に渡りお届けしてまいりました「夢模様」ですが、今号をもちまして連載を終了させていただくことになりました。

ご愛読ありがとうございました。今後ともよろしくお願いします。

学習院大学新聞社
黎明会館316号室 3986-0221(内線2607)
http://www-cc.gakushuin.ac.jp/~press

心安らぐ青の空間 水族館へ行こう



水族館は、日常では見られない生き物たちと出会える場所。彼らの姿は私たちに癒しを与え、普段意識することのない自然の雄大さを教えてくれる。今回はそんな誰もが楽しめるスポット、水族館に注目してみた。

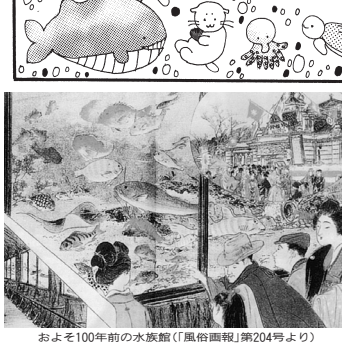
歴史から見る水族館

日本の水族館の起源は、1世紀以上前にまで遡る。明治15年の第20回上野動物園の一角にできた「観魚室（つるのこや）」と呼ばれる展示施設が最初だ。これは、欧米に30年遅れのスタートだった。当時は組み込まれ、照明がなく暗い館内の小窓から、外の光が差し込む明るい水槽を一見するように作られていた。金魚やフナ、コイ、テナガエビ、サンショウウオなどの淡水に棲む生き物を鑑賞することができたという。広さは坪と現在のものに比べると相当狭く、水槽の数も15と少なかったが、大きな話題を呼んだ。明治18年には、日本で2番目になる「浅草水族館」が誕生。その翌年にも、東京帝国大学の理学部が主に研究目的のため、三崎半島の臨海実験所に水族館を設立した。

こうして続々と建てられていく中、水槽内の水から汚れを除去し、綺麗になった水を再び戻す循環型ろ過設備が登場。これにより、いよいよ海水魚を飼育できるようになったのだ。この装置をいち早く導入したのが、明治30年に作られた兵庫県の「和田岬水族飼養場」である。淡水魚に加えて、20の水槽で53種の海水魚を展示していたという。金3ヶ月間だけの営業だったが、初めて海の生き物を見られるということで、毎日入館者の行列ができるほどの評判であった。

1970年代になると、イルカやシャチ、アシカといった海獣のショーを行うマリンランド形式の館が現れる。今では、彼らのパフォーマンスを見るための人気を集めている。だが、その歴史はまだ浅いのである。

そして現在、知識や技術の向上によって、かつては飼育困難だった生き物も展示可能になった。また近年、環境保護意識の高まり



およそ100年前の水族館（「風俗画報」第204号より）

魚やフナ、コイ、テナガエビ、サンショウウオなどの淡水に棲む生き物を鑑賞することができたという。広さは坪と現在のものに比べると相当狭く、水槽の数も15と少なかったが、大きな話題を呼んだ。明治18年には、日本で2番目になる「浅草水族館」が誕生。その翌年にも、東京帝国大学の理学部が主に研究目的のため、三崎半島の臨海実験所に水族館を設立した。

こうして続々と建てられていく中、水槽内の水から汚れを除去し、綺麗になった水を再び戻す循環型ろ過設備が登場。これにより、いよいよ海水魚を飼育できるようになったのだ。この装置をいち早く導入したのが、明治30年に作られた兵庫県の「和田岬水族飼養場」である。淡水魚に加えて、20の水槽で53種の海水魚を展示していたという。金3ヶ月間だけの営業だったが、初めて海の生き物を見られるということで、毎日入館者の行列ができるほどの評判であった。

1970年代になると、イルカやシャチ、アシカといった海獣のショーを行うマリンランド形式の館が現れる。今では、彼らのパフォーマンスを見るための人気を集めている。だが、その歴史はまだ浅いのである。

そして現在、知識や技術の向上によって、かつては飼育困難だった生き物も展示可能になった。また近年、環境保護意識の高まりと共に、生き物だけでなく、その生息状況も再現して見せているところが増えてきている。そのため水槽内の環境、生き物たちへの関心と理解を、より深められるようになった。

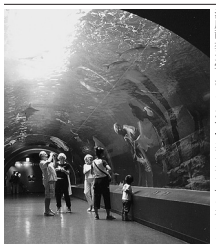
魚を見る娯楽として成立した日本の水族館。それは今や、世界の自然環境を楽しみながら学ける場へと変化を遂げたのである。

（羽野原遼）

本学近辺の水族館を紹介

エプソン品川アクアスタジアム

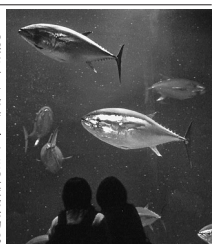
この水族館には、約300種、2万点に及ぶ世界の海の生き物が集っている。魚を観察することもでき、海底散歩を楽しむもよし。



魚たちが遊泳するトンネル

くりの展示エリアが珍しい。

ここのメインは、長さ約20メートルを誇る海中トンネルだ。青い光の差し込む神秘的な空間を、サメとエイが頭上をかすめるように泳き回っている。また、夕暮れ時をイメージした酉景ギンの中にも、様々な魅力的な施設が設けられている。都内唯一の規模を誇る人数を誇る円形プールでは、イルカたちのパフォーマンスが行われている。アシカとのショーで楽しませてくれるのだ。そして、ショーを見終えた後はレストラン「アクアダイニングトロピカ



悠然と泳ぐクロマグロ

ス」での食事がお勧め。水槽を泳ぐ色とりどりの熱帯魚に囲まれ、まるで海の中にいるかのような気分に浸れるのだ。

ここは、幻想的な海中の神秘を味わうことのできる水族館、都心の海底世界を楽しんでみてはいかがだろう。

（羽野原遼）

アクセス：JR「品川駅」（高輪口）、または京急「品川駅」から徒歩2分。

開館時間：12時～20時（土曜日は10時～21時）。※季節により変動あり。

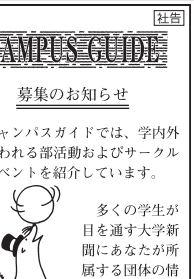
休館日：無休

入館料：大人1800円

葛西臨海水族園

葛西臨海公園のなぎさの近くに位置する本館は、東日本トップクラスの入場者数を誇る水族館だ。ここでは、中心となっているマグロ類を始めとして、約650種もの多種多様な生き物が飼育されている。交通の便が良いことから、デートコースとして定番の場所だ。

特徴的な「ハ型」の入り口から入場すると、世界中の海の生き物が展示されるエリアに出る。ナーサリーフィッシュなど、珍しい魚たちを観察することができるのだ。また、中央にある



可愛い仕草をするアシカ

大水槽の迫力満点の「ブルーフィンツナ」は、ドーナツ型水槽で、マグロやカツオといった回遊魚たちが悠々と泳いでいる。2メートル近いその巨体は圧巻だ。

そして二目的に出るとヒトデやウニなどふれあえる水辺のミニコーナーがある。普段、磯辺で遊ぶ感覚で、彼らの可愛らしい姿を観察することができる。再び館内に戻れば、今度は東京の海の生態展示だ。水槽を上部から眺めることもでき、飼育係の仕事や水槽の掃除も見られる。

子どもから大人まで楽しめる葛西臨海水族園、都心のリフレッシュとして、今後も多くの人々がここを訪れるだろう。

（藤沢毅之）

アクセス：JR京葉線葛西臨海公園駅から徒歩5分。

開園時間：9時30分～17時

※季節により変動あり

休館日：水曜日

入園料：大人700円

サンシャイン国際水族館

本館は、地上40メートルの高層ビルの最上位に位置する都市型水族館だ。ここでは、中心となっているマグロ類を始めとして、約650種もの多種多様な生き物が飼育されている。交通の便が良いことから、デートコースとして定番の場所だ。

特徴的なハ型の入り口から入場すると、世界中の海の生き物が展示されるエリアに出る。ナーサリーフィッシュなど、珍しい魚たちを観察することができるのだ。また、中央にある大水槽の「ブルーフィンツナ」は、ドーナツ型水槽で、マグロやカツオといった回遊魚たちが悠々と泳いでいる。2メートル近いその巨体は圧巻だ。

そして二目的に出るとヒトデやウニなどふれあえる水辺のミニコーナーがある。普段、磯辺で遊ぶ感覚で、彼らの可愛らしい姿を観察することができる。再び館内に戻れば、今度は東京の海の生態展示だ。水槽を上部から眺めることもでき、飼育係の仕事や水槽の掃除も見られる。

子どもから大人まで楽しめる葛西臨海水族園、都心のリフレッシュとして、今後も多くの人々がここを訪れるだろう。

（藤沢毅之）

アクセス：JR京葉線葛西臨海公園駅から徒歩5分。

開園時間：9時30分～17時

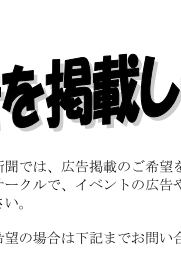
※季節により変動あり

休館日：水曜日

入園料：大人700円

知りたい！トレーナーのお仕事

横浜・八景島シーパラダイスには、個性あふれる3つの水族館が揃っている。水槽の健康管理など、飼育係のお仕事ぶりをのぞいてみた。



「ルフィンフンボルトペンギンがいる岩場」到着。陸上と水中での、彼らの可愛らしい姿を観察することができる。

ここは、幻想的な海中の神秘的な空間を、サメとエイが頭上をかすめるように泳き回っている。また、夕暮れ時をイメージした酉景ギンの中にも、様々な魅力的な施設が設けられている。都内唯一の規模を誇る人数を誇る円形プールでは、イルカたちのパフォーマンスが行われている。アシカとのショーで楽しませてくれるのだ。そして、ショーを見終えた後はレストラン「アクアダイニングトロピカ

展示の工夫を語る布留川さん

るような展示が目標であった。「そこで必要なのが、生き物と直にふれあえる場所や、動物たちの躍動を伝えるショーです。さらに、生き物がかなり間近で接することによって心の病を治療する『ルフィンセラピー』というものが挙げられます。」

ては、生き物を癒しという関連しているのだろうか。「最近、癒しという言葉をよく耳にしますが、それは、人間自体がとても疲れているからかもしれません。」

と布留川さんは語る。それゆえに、社会全体が癒しを求める風潮にあるのだろう。そんな欲求に対して、生き物がなぜ人間に癒しを与えるのかを問いかけ、「生き物がいかに人間にとって大切なものであるかを伝えたい。」という。「それを手助けするのが、私たちのようなお仕事に携わる人間だと考えています。」

またシーパラダイスでは、自然保護の活動も行っている。「身近なところでは、東京湾の地引き網漁で、多くの人が参加している。」

海の生き物を通して、多くのメッセージを伝えてくれる水族館。今後も、進化し続けるその姿に期待したい。

（市川美奈子）

取材・構成　市川美奈子
小室真衣子
澁谷　毅士
須野原　遼
美馬　香織

私の回顧録から ～page 7～

文学部史学科
家永 遵嗣 教授

学ぶ喜びを見つけて

今回は、史学科の家永遵嗣教授に学生時代を振り返っていただきました。先生は一体どのような日々を送っていたのでしょうか。

やり残したいと印象

恥ずかしい話ですが、私はあまり出来の良い学生ではありませんでした。もちろん勉強はやっていましたが、昼夜が完璧に逆転していたのです。昼に学校で論文をコピーして、夜に家でそれを読むという日々の繰り返しでした。4年間の締めくくりの卒論も、努力はしたがやり残したことがある、という印象のまま提出しました。ね、以前から興味を持っていた江戸の乱を扱ったのですが、史料や研究論文を読めば読むほどすべて調べ尽くされている気がしました。だから、独自の新しい考えを創りだすまでには至らなかったのです。

今の自分につながる経験

卒業後、石油会社に就職しました。その時に実感したのが、生活習慣の大切さですね。人間、一旁りが発揮できるのは、生活のサイクルがしっかりしている時だのです。そして2年間勤めている間に、卒論で取り上げ後した内容について、ある見通しをもつようになりました。それは江戸の乱の前ごろ西暦事情で、京都の情勢と関東のそれとの間に密接な関係があったらしいということに気づいたのです。これに関しては江戸乱を起究されておらず、まさに「ここ掘れワンワン」状態で、宝探しのようなものでありました。その見通しを確認するため、会社を辞めて大学院に入ることを決めました。周囲は驚きましたが、自分には発見したものが本物だという確信があったのです。

それから大学院に入るまでの2年ほどの間が、本当に勉強した時間だと思います。何より、未知の真実がみえてくる感動がありました。やはり学んでいくうえで大事なのは、自分にとって感動できるものを見つけることでしょう。

（取材・構成　市川美奈子）

発見の感動を思い起こす家永教授

PROFILE

1982年東京大学文学部史学科卒業、共同石油株式会社就職。83年同社退職。94年東京大学大学院博士課程修了。99年より本学の助教授を経て、06年より現職。

読書

青い鳥

教師と生徒の心の交流

いじめ、学級崩壊、自殺…。中学校を舞台とする本書は、この世代の生徒たちの目線に向きあっている。教育者ではなくとの世代の著者にも強い共感を呼び起こしている一冊だ。

本書は8つの短編によって構成されており、全編通して登場する村内先生は、中学の国語非常勤講師を務めている。小太り で髪の薄い、一見ごこにもいそうなおじさんだ。しかし、初めて彼が呼ばれる名前にも生徒は必ず驚く。なぜならば彼が吃音であり、言葉がこもってうまく話せないからだ。ちょっとした会話でも息をのらし、顔を真っ赤にする姿だ。

そんな村内先生が赴任する先には、様々な葛藤を抱えている生徒が待っている。たとえば、学校で喫煙などができなくなってしまった少女や、父親の死を受け入れられなかった少年、他にもいじめによってクラスメイトを自殺にまで追い込んでしまった中学生もいる。村内先生は、重い現実に悩み苦しむ生徒たちのそばにいることで、彼らを救い出す。とはいえ、教師といっても、何も大げさな行動をとるわけではない。多くを語るわけでもない。それでも村内先生と接することで、彼らは自分なりの解決法を見出していくのだ。

作中、村内先生がもった言葉を、あえてここで本表記しているものがある。彼がくくっていたのかわからず、読みにくいこともあるが、それ故に、ひとつひとつがすんなりと心に沁み入り吃音で、教師を学んでいたことから、村内先生への思いの強さが感じられる。

村内先生の教えには、中学生だけでなく、大人にも通じるところがたくさんある。年齢に関わらず、せひとも多くの人に読んでもらいたい。

（重松清著　新潮社　税込1680円　2007年刊）

（香）

生き物と親しめる空間へ

葛西臨海水族園

葛西臨海公園のなぎさの近くに位置する本館は、東日本トップクラスの入場者数を誇る水族園だ。ここでは、中心となっているマグロ類を始めとして、約650種もの多種多様な生き物が飼育されている。交通の便が良いことから、デートコースとして定番の場所だ。

特徴的なハ型の入り口から入場すると、世界中の海の生き物が展示されるエリアに出る。ナーサリーフィッシュなど、珍しい魚たちを観察することができるのだ。また、中央にある大水槽の「ブルーフィンツナ」は、ドーナツ型水槽で、マグロやカツオといった回遊魚たちが悠々と泳いでいる。2メートル近いその巨体は圧巻だ。

そして二目的に出るとヒトデやウニなどふれあえる水辺のミニコーナーがある。普段、磯辺で遊ぶ感覚で、彼らの可愛らしい姿を観察することができる。再び館内に戻れば、今度は東京の海の生態展示だ。水槽を上部から眺めることもでき、飼育係の仕事や水槽の掃除も見られる。

子どもから大人まで楽しめる葛西臨海水族園、都心のリフレッシュとして、今後も多くの人々がここを訪れるだろう。

（藤沢毅之）

アクセス：JR京葉線葛西臨海公園駅から徒歩5分。

開園時間：9時30分～17時

※季節により変動あり

休館日：水曜日

入園料：大人700円

サンシャイン国際水族館

本館は、地上40メートルの高層ビルの最上位に位置する都市型水族館だ。ここでは、中心となっているマグロ類を始めとして、約650種もの多種多様な生き物が飼育されている。交通の便が良いことから、デートコースとして定番の場所だ。

特徴的なハ型の入り口から入場すると、世界中の海の生き物が展示されるエリアに出る。ナーサリーフィッシュなど、珍しい魚たちを観察することができるのだ。また、中央にある大水槽の「ブルーフィンツナ」は、ドーナツ型水槽で、マグロやカツオといった回遊魚たちが悠々と泳いでいる。2メートル近いその巨体は圧巻だ。

そして二目的に出るとヒトデやウニなどふれあえる水辺のミニコーナーがある。普段、磯辺で遊ぶ感覚で、彼らの可愛らしい姿を観察することができる。再び館内に戻れば、今度は東京の海の生態展示だ。水槽を上部から眺めることもでき、飼育係の仕事や水槽の掃除も見られる。

子どもから大人まで楽しめる葛西臨海水族園、都心のリフレッシュとして、今後も多くの人々がここを訪れるだろう。

（藤沢毅之）

アクセス：JR京葉線葛西臨海公園駅から徒歩5分。

開園時間：9時30分～17時

※季節により変動あり

休館日：水曜日

入園料：大人700円

CAMPUS GUIDE

●スイカウンズジャズ オーケストラ
「ジュニア学館」
日時：9月30日（日）10時～
場所：横浜市立大学　シーガル食堂
料金：無料
内容：1、2年生が中心のビックバンドです。

●アナウンス研究会
「GAS LIVE 18」
日時：10月6日（土）
場所：北斗会館　401
料金：無料
内容：他大学を招待し、一生懸命に制作した番組を放送します。

●舞世会部
「白鳥会」
日時：10月14日（日）
場所：杉並能楽堂
料金：無料
内容：他大学との仕舞の合同舞台です。

●鉄道研究会
「模型づくりの裏ワザを見つけよう」
日時：10月12日（金）26日（金）
場所：北1号館　301
料金：無料
内容：学校で人気の鉄道模型のレイアウト。その制作の裏側を見てみませんか。

●演劇部少年イサム堂
「八月のシャンハラサーデー」
日時：10月19日（金）19時～20日（土）19時～21日（日）14時～
場所：第十見会館401　演劇アトリエ
料金：無料
内容：人の生と死を見つめ直すことのできる作品です。是非見にいらして下さい。お待ちしています。

社告

CAMPUS GUIDE

募集のお知らせ

キャンパスガイドでは、学内外で行われる部活動およびサークルのイベントを紹介しています。

多くの学生が目を通す大学新聞にあなたが所属する団体の情報を掲載してみませんか？

学習院大学新聞社　３面

粘り見せるも惜敗

フットサル愛好会

フェイントを交えたドリブルを仕掛ける石坂選手（右）

8月29日、フットサル東京都大学リーグ第2節が行われ、本学はディアボロ（立教大学）戦に臨んだ。本学に比べ経験豊富な相手ということで、小原一記主将（済3）は試合前、「守りをしっかり固めるところから始めます」と話した。

前半開始早々、ディアボロの攻撃が本学ゴールを脅かすシーンが続く。しかしここはGKの柳直隆選手（営2）がゴールを死守し、得点を与えない。本学は敵の猛攻を凌ぎつつ、徐々に攻撃の時間を増やしていく。そして前半も中盤を迎えた頃には、試合のペースを完全に握った。9分には石坂淳選手（営2）の強烈なシュートが相手ゴールを襲う。惜しくも相手GKに阻まれるが、本学の勢いは止まらない。横尾圭佑選手（営2）が正確なミドルシュートを放てば、山口修太朗選手（数1）はキレのある動きで相手を翻弄する。

ゲームを支配し、幾度となく好機を創り出す本学。だが、シュートがたびたびポストに嫌われ、1点が遠い。すると前半14分、ゴール左下へ鋭いシュートを突き刺され、まさかの先制点を奪われる。その2分後には遠めからのシュートがゴールへ吸い込まれ、立て続けの2失点。本学はなんとか前半のうちに1点を返そうと攻勢に出るが、これが裏目に。前半終了間際、守備が手薄になったところを突かれ、追加点を許してしまった。結局、前半は0―3で折り返すことになる。

後半開始直後は一進一退の攻防が続く。ところが残り時間が少なくなるにつれ、相手は無理に攻めず、逃げ切りを図る作戦に出る。本学は、相手の守備網をなかなか突破できない。残り5分を切ったところで、ついに本学の本領が発揮された。後半15分、石坂選手がゴール前でパスを受けると、すかさずシュートを繰り出す。これが決まり、反撃の口火を切る。さらに17分には相手のハンドによりPKを獲得。このPKを横尾選手が豪快に蹴りこみ、1点差になった。ボールをキープし時間を稼ごうとする相手に対し、本学はなおも攻撃の手を緩めない。そして残り1分、CKから山口選手がシュートを放つも、相手GKに弾かれる。こうして最後まで粘りを見せたものの、あと一歩及ばず2―3のまま試合終了。本学にとっては、数多くの決定機を逃したことが響いた結果となった。

試合後、小原主将は「良い流れで試合を進めることができ、多くのチャンスを創れました。ただ、決めるべき場面で決められなかったのが残念です」と語った。とはいえ、今後の試合に向けては、「敗れはしましたが、1点差ですから競った試合はできています。今日のような接戦でも勝てるチームにしていきたいです」と前向きだ。成長を続けるチームに、次節以降も注目したい。（宮川雅志）

後半の失点大きく響く

苦戦強いられ星落とす

男子ラクロス部

8月20日、夏の強い日差しが照りつける中、関東学生男子ラクロス2部リーグ戦が江戸川区葛西臨海球技場で行われた。今リーグ戦では6チーム中、上位2チームが1部昇格への切符を手に入れることができる。全勝優勝を狙って、好調なスタートを切りたい本学。しかし、上智大相手に5―8とあと一歩及ばず、課題が残る試合となった。

今回の対戦相手は上智大。「現在のチームではまだ勝ち星を得ていない相手です。持ち前の雰囲気の良さを活かし、初勝利を目指して頑張ります」と續修一主将（政4・つづき）は強い意気込みを語った。

素早い動きで相手の攻撃を止めようとする續主将（右）

緊迫した空気の中、ついに試合が始まった。第1クオーターのフェイスオフでは本学がボールを取り、序盤から攻めの姿勢を見せていく。しかし、なかなか得点にはつながらず、しばらくすると上智大にペースを奪われてしまう。相手にシュートを放たれ、ひやりとした雰囲気が漂った。だがここはディフェンス陣が踏ん張り、すかさずカウンターで応戦する。そして試合開始7分、長友健太朗選手（政4）が相手のマークをかわし豪快なシュートを押し込んだ。先制点を獲得した本学はその後の主導権を握り続ける。それから得点はなかったものの、1―0と好調な出だしを見せた。

第2クオーターもこのままの勢いでいきたいところだが、開始2分で失点を喫し、1―1と追いつかれてしまう。しばらく両者無得点の状態が続いたところで試合を動かしたのは、またしても本学であった。ゲームメーカーの荒木真人選手（法4）が上手くパスを回し、長友選手が2点目を奪取。観客席に歓声が沸きあがった。しかし、相手も引き下がらない。逆に本学が守備に回り出し、わずか3分後に同点に持ち込まれる。さらにミスを突かれ、相手に追加点を許し巻き返されてしまった。このまま前半終了かと思われたが、ラスト2分で本学が意地を見せる。二宮啓選手（法4）がゴール後ろから右サイドへ走りこんでパスを出すと、清水俊希選手（物4）がそのまま流し込んだ。こうして前半は3―3と、拮抗した試合内容となった。

続く第3クオーターでは開始1分で上智大に点を取られ、出鼻をくじかれてしまう。ほぼノーマークで決められたこの1点は、本学に焦りの色をもたらす。この嫌な流れを断ち切ったのが途中交代で入った角田静彦選手（政3・やすひこ）だ。ゴール手前の右側から鋭いシュートを放ち、上智大のゴールネットを揺らした。ところが終了間際に1点を勝ち越され、4―5と僅差で後れをとったまま、試合は最終クオーターに突入していく。

態勢を立て直せず迎えた第4クオーターは、体力的にも厳しさが現れてきた。選手の足が止まる場面がだんだんと見え始める。そこをつかれた本学は、10分で3点を取られ試合を決定づけられてしまう。残り時間で逆転勝利を狙うものの、追い上げは1点止まり。5―8と残念な結果で終わってしまった。

試合後、續主将は「相手がこちらの動きを封じてきたときに対応しきれていませんでした。実力的には大差なかったものの、向こうが本学の戦力を研究していたところに差が出たようです」と悔しそうに振り返った。初の白星は次回へと繰り越されてしまった対上智戦。けれどもこの試合で得た経験を踏まえ、次こそ勝利を掴みとってほしい。（和田恵理子）

10人が予選通過

射撃部

8月23日から26日にかけ、陸上自衛隊朝霞駐屯地射撃場にて、秋季関東学生ライフル射撃選手権大会予選会が行われた。今大会は本戦進出、さらには全日本大会にも繋がる重要な試合である。本学からは10名が予選を突破。その中でも好成績を記録し、大健闘を見せたのが中谷有里選手（日4）であった。

中谷選手は2日目の50メートルライフルP60と、3日目の50メートルライフル3姿勢の2種目に出場した。最初の50メートルライフルP60は、体を伏せて銃を撃つ伏射で、50メートル先の的を狙う競技である。10発を1シリーズとして、全てで6シリーズの合計60発の得点で競われる。安定した姿勢から放たれる銃弾は、次々と的を射抜いていく。1発につき10点が最高点で、600点が満点であるが、中谷選手はそのうち568点を挙げた。終始集中力を維持した中谷選手は、見事3位入賞を果たし、本戦への出場権を手にした。

的に狙いを定める中谷選手

次の3日目の種目は、50メートルライフル3姿勢。伏射と、立って撃つ立射、片膝を立てた状態で撃つ膝射の3つの構えから成る種目だ。各20発の本射、計60発の合計点で順位を決める。中谷選手はこの日も大きく調子を崩すことなく、順調に点を重ねた。圧巻は伏射の2シリーズ目。1シリーズ100点満点の内、ほぼ完璧に的の中心を捉えた射撃で99点を獲得した。600点満点中、中谷選手の得点は最終的に532点。4位でこちらも予選を通過した。

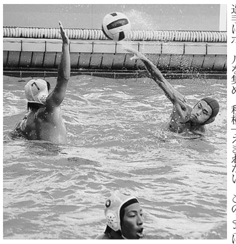
試合後、中谷選手は「結果が出てほっとしています。全日本大会へ良いスタートが切れました」と語り、早くも意識を次戦に向けていた。関東大会を勝ち抜き、さらなる大舞台に立つ彼女達の活躍を期待したい。（平野健）

波に乗れず苦杯

水泳部男子

8月9日、成蹊大学にて四大戦が行われた。今回の対戦相手は成城大で、武蔵大が欠場している上に、成蹊大に敗れている本学は後がない。緊張感に包まれた会場で、今大会の最終戦が開始された。

ところが第1クォーター、本学は出だしにつまずき、カウンターで点を入れられてしまった。先制点を許した本学は、速く泳げる選手にボールを集め、積極的に攻めていく。ゴール前で得点のチャンスを何度も作るが、シュートは枠を捉えきれない。このようにして、幾度となく訪れた決定機を逃した本学。逆に成城大から次々と得点されてしまい、序盤から0―5と差をつけられた。



ゴール前大きくパスする磯山選手（右）

そして試合は第2クォーターへ。プレスからの素早い反撃が持ち味の本学であるが、相手にプレッシャーを与えられず、思うように動けない。しかし中盤にさしかかるころ、江本知弘選手（済2）が執念でボールを押し込み初得点。このプレーが他の選手を奮い立たせ、チームに勢いが出た。本学は終了間際にパスで相手ディフェンスを翻弄し、さらに点を取って2―6で前半戦を終える。

陣地を入れ替え、試合は第3クォーターに突入。江本選手や磯山広幸選手（史3）が、素早い連携から鋭いシュートを放ち、続けざまに加点する。この2点が入ったことで流れに乗りたい本学だったが、成城大の反撃が猛威を振るう。強烈なシュートにより、本学守備陣はなす術もなく連続失点。このままでは終われないと、村野真澄主将（営4）がなんとか1点を返す。だが第3クォーター終了時点で5―10と、依然状況は厳しいままである。

逆転勝利を狙い、始まった第4クォーター。本学は江本選手や磯山選手を中心に懸命に追い上げを試みるものの、相手も得点し差は縮まらない。結局最後までペースを掴むことができず、8―13で無念の敗北を喫した。

こうして、本学3位に終わってしまった四大戦。「体力では本学が優っていたのに、立ち上がりで気持ちが入らず苦戦してしまいました。また、皆が周囲に注意を払えていなかったのもまずかったです」と村野主将は語る。次回リーグ戦での雪辱と、さらなる心技の向上を誓った。（澁谷毅士）

FLASH BACK

女子ゴルフ部

杉浦まれみ主将（政4）

自分を見つめ 自分と戦う

現在主将を務める杉浦さんは、大学生になってからゴルフを始めた。それまで彼女はバレーボール部に所属し、球技に慣れ親しんでいた。ところが本学に入学した4月、ゴルフ部の練習に参加したとき、自分の振るクラブにボールが全く当たらないことにショックを受ける。ここで杉浦さんの生来の負けず嫌いに火がつき、それがきっかけでゴルフ部への入部を決めた。2年生の4月には早くもレギュラー入りを決め、主力選手であった当時の主将を目標に毎日練習に打ち込んだ。

そんな杉浦さんにとって印象深い試合の1つが、3年の秋に行われた団体戦である。団体戦は個人戦と違い、自分のスコアがそのままチームの成績に反映してしまう。そのため、安易に攻めることはできず、とにかく堅実なプレーを心がけなければならない。チームでプレーしていること、加えてレギュラーになれなかった選手の応援を背にすることなど、様々な重圧の中で選手達は戦うことになる。毎年本学はBリーグの3位と常に好成績を残してきたが、この大会では1日目を終えた段階で5位と不振であった。だが2日目に杉浦さんは初めて79を記録し、同時にチームを3位まで引き上げた。大学からゴルフを始めた人にとって70台のスコアを出すことは快挙なのだ。そのことが当時の杉浦さんにとって大きな自信となった。4年生の引退後、新たな主将を決めるときに杉浦さんは自ら立候補し、主将となった。

ゴルフという競技と杉浦さん自身の関わりについて「これまで3年半ゴルフをやってきて一番感じたのは、自分と向き合うことの大切さです。ゴルフは今まで経験したどの競技とも違い、いつでも自分との戦いでした」と語ってくれた。この言葉は杉浦さんがゴルフから受けた影響の大きさを物語っている。

現在の目標は、最後の試合となる秋季リーグでチームをAリーグへ昇格させ、個人としては再び試合で70台のスコアを出すこと。そして残された時間で、自分の持てる全てを後輩に伝えることである。今日も、杉浦さんをはじめとするゴルフ部の面々はクラブを振っている。主将として、一選手としての最高の締めくくりを期待したい。（水上諒）

TOPICS

その他の試合結果

【バレーボール部女子】▼四大戦▽対成蹊大3―2▽対武蔵大0―3▽対成城大3―0　2位

【バスケットボール部女子】▼甲南戦▽2勝0敗1位

【トランポリン部男子】▼全日本学生トランポリン競技選手権大会▽団体戦　Cクラス　1位▽個人戦　近藤優矢選手　Cクラス　3位▽田原良彦選手　Cクラス　4位▽町田尚生選手　Cクラス　5位

【トランポリン部女子】▼全日本学生トランポリン競技選手権大会▽シンクロ　小野聡子選手・花田亜希子選手組　Bクラス　3位▽個人戦　小野聡子選手　Bクラス　5位

【スカッシュ部】▼関東学生選手権大会▽石渡博一選手・中村みどり選手・廣石友子選手　ベスト16

【漕艇部】▼東日本選手権▽横堀翠選手　準優勝▼全日本大学選手権▽横堀翠選手　準優勝

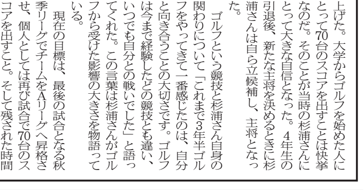
【ゴルフ部】▼四大戦▽1位

デスクの片隅

締め切り日1週間前。この期間に入ると、我々新聞社員は夜遅くまでの編集作業を強いられる。黎明会館の閉館時間である10時半まで残ることもざらだ。そんな過酷な状況下で、私が最も危惧していること。それは疲労の蓄積である。締め切り前の我々は、焦りという要因も重なり、心身ともに余裕がなくなってしまうのだ▼その影響を最も受けるのが、記事を添削している時である。文章を読むという、神経を要するこの作業。そのため、疲労時に行うと必ず幾つかの見落としをしてしまうのである。そしてそのミスに気付けず、締め切り直前になって慌てる時ほど辛く、悔しいことはない。このような失敗を過去幾度か引き起こし、反省を繰り返してきた▼無理をして、少しでも作業を進めるのは確かに大切なことである。だが、精一杯頑張っても体には限界があり、疲労が原因でミスを引き起こしてしまったら本末転倒だ。今後は体調管理の重要さを改めて意識し、常にゆとりを保つことを、自分自身に課していきたい。（下）

社告

4面コラム FLASH BACK



感動のあの一戦を紙面に残してみませんか？

学習院大学新聞社
黎明会館316号室
E-mail:gakushuinpress@hotmail.com